



1_上空から見る竪穴住居跡と竪穴遺構
2_3基の竪穴塚 3_遺跡の周囲と川原から運んだ石で築かれたと考えられる竪穴塚の石積

出土した主な遺物

竪穴住居跡と竪穴遺構



台付鉢(※1)

底に脚が付いている鉢。神仏などへお供え物をするときに利用された可能性が考えられます。



墨書土器(※2)

墨で字が書かれた土器。「六」の字が確認でき、集落に文字を扱える人がいたと考えられます。

経塚



渥美窯壺(※3)

愛知県渥美半島産の壺。経典を入れる経筒を収める経容器として使われたと考えられます。



龍泉窯青磁碗(※4)

中国産の貴重品。経容器のふたに使われており、この経塚が地域において重要だったと考えられます。

奥州藤原氏と遠野のつながりを示す
宮代IV遺跡発掘
市は、昨年度から本年10月にかけて宮代IV遺跡(松崎町)の発掘調査を実施。その結果、奥州藤原氏と遠野のつながりを示す遺物など貴重な出土品が発見されました。発掘調査の概要を紹介します。

市内の12世紀の経塚は、北上川沿いに集中して30カ所確認されていますが、今回発見された3基の経塚は、同時期に築かれた遺構として本市で初めて記録されたものです。今後、他の事例と比較検討をしていくことで、遠野と奥州藤原氏、平泉のつながりに関する研究の進展が期待されます。

本市で初記録の遺構 研究の進展に期待

12世紀の遺構は経塚3基。その中から、渥美窯壺(※3)と龍泉窯青磁碗(※4)が見つかりました。このころに愛知県や中国などの遠方と交易ができるような人脈や財力を持っている人は奥州藤原氏しか知られていないため、同氏と遠野に何らかの関わりがあったと考えられています。

10世紀の遺構は竪穴住居跡2棟と、かまどの無い竪穴遺構1棟。県内でも珍しい台付鉢(※1)や文字が書かれた墨書土器(※2)など、当時の暮らしを想像できる貴重な遺物が出土しました。胆沢城や志波城と関わりのある、文字を扱える人がこの集落を営んでいたと推察できます。

文化課が記録保存のため調査を実施。10世紀初頭と12世紀後半の遺構や遺物が見つかりました。

9月25日には現地説明会が行われ、市内外から関係者ら60人が参加。市文化課職員が出土した遺構と遺物を解説し、参加者は今回の発見について理解を深めました。

同遺跡は、平成29年度に市内企業が行った岩石採取調査時に発見され、市

遠野と奥州藤原氏の つながりを示唆する新発見



9月25日に行われた現地説明会の様子